

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500130		
法人名	株式会社 神山		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	〒028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林11-1403		
自己評価作成日	令和4年12月17日	評価結果市町村受理日	令和5年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ、庭には畑もあり、出来る方は一緒に畑仕事などしている。利用者一人一人の生活習慣に合わせ、家庭的な雰囲気の家、共同生活を送ってもらっている。現在はコロナ禍の為、外出など、制限はあるが、出来る限りの行事を企画し、利用者が楽しんで生活が出来るように日々努めている。出来る方には職員の手伝いなど一緒にやっていただき、意欲の維持、向上に努めている。日頃から、利用者の体調に変化が無いが、観察し、ケース記録も細目に入力し、変化があった際は家族や医師へ情報提供が出来るように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれ、見晴らしのよい高台に開設された事業所で、広々とした敷地にある畑や花壇は、利用者の機能維持向上と生活の潤いをもたらす役割を担っている。隣接する同系列の地域密着型特別養護老人ホームとは、行事や緊急時、ワクチン接種や理容師が訪れたとき一緒に利用させていただく等、協力体制が構築されている。事業所内には「総務」「安全管理」「畑」等の委員会を設け、職員はそれぞれの委員会に属し、身体拘束、虐待、人権擁護等の会議や研修を企画したり、避難訓練や畑管理等に取り組んでいる。更に年度始めには、職員一人ひとり「行動目標」をたて、利用者一人ひとりを考えた支援に努めている。家族には、毎月利用者の様子や状態、行事等の写真を交えた「お便り」でお知らせし好評を得ている。医療面においても「情報提供書」を通しながら、家族や医師とも良好な関係が出来ている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年1月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える場所に掲示し、周知している。内部研修の際、定期的に説明をしている。	事業所理念「心安らぐ 温かい ふれあいを」を開所時に定め、見える場所に掲示している。理念を基に8項目の「行動指針」を定め実践に繋げている。職員一人一人が今年度の「行動目標」を持って、介護の質向上に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍の為、制限しているが、防災訓練などの際に地域ボランティアの方に参加してもらい交流を深めている。	自治会に加入し、町内会や地域の自主防災会にも加入している。コロナ禍で自治会の文化祭などの行事には参加できていない。事業所の災害避難訓練に、防災ボランティア(3、4名)の協力がある。市の移動図書館が来所し、利用者が利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族には認知症の理解を深めてもらうため、事故があった場合など認知症の特徴や再発防止策など説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見など頂いた際には、職員と共有し、サービスの向上に努めている。	会議の委員には、民生児童委員、石鳥谷総合支所担当課長、石鳥谷地域包括支援センター担当職員、地区行政区長を依頼している。コロナ禍で書面開催となり、会議通知に「意見記入用紙」と返信用封筒を同封し送付している。委員からは、コロナ禍での介護の苦勞にねぎらいのことばを頂いている。コロナ禍以前は、利用者も会議に参加していた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員も参加していただき、相談や意見をいただいている。	現在は、書面開催となって直接相談することが少なくなったと感じているが、運営推進会議の委員である支所担当課長や地域包括支援センター担当者から意見や助言を頂いている。要介護認定申請時には、家族の代行で直接窓口に出向いている。市とは、良好な協力関係が築けている。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて身体拘束の理解に努めている。	安全推進担当職員(3名)が、身体拘束適正化委員を兼ね、権利擁護や虐待防止、スピーチロック等の身体拘束について委員会や研修会を主宰している。ヒヤリハット事例については、連絡ノートやケース記録に記載している。ヒヤリハットについては、事業所としての基準の作成を予定している。不適切なケアに気づいた際には、管理者は職員との個人面談で注意を促すこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を設け、職員間での意見交換・防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議での研修を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、分からない事があれば随時対応している。契約内容に改定があれば速やかに追加説明し、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族間で意見の言いやすい関係を築くように心がけている。施設に訪れた時など、こちらからそれとなく話せる雰囲気を作っている。	利用者とは、話しやすい関係作りを心掛けている。会話の中で「何をしたい」「何もない」との返事が返ってくる事も多く、利用者の言葉を引き出す工夫をしている。家族とは、通院時に意見を聞いている。利用者個々の1か月の生活状況を写真や担当者のコメントを記載した「お便り」として家族に送付しており、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを図り、意見の言いやすい雰囲気を作っている。	管理者は、月1回の職員会議や日々の業務の中で意見や提案を聞いている。勤務割りについても、職員の提案が反映されている。個人面談を年2回実施し、職員一人一人の「行動目標」への取り組みを支援している。資格取得に力を入れ、受験費用や交通費を支給している。	

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望者には面談を行い、気軽に話せる雰囲気作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行っている。資格取得での費用を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加し情報交換に努めている。入所申し込みの方の実態調査の際など、他事業所の管理者、相談員と情報交換をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査や入所時の際、本人の言動など注意深く観察し、どのような対応、声掛けをすれば安心できるかなど職員で共有し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階から、なにに困っているか何が不安か具体的に伺い、職員で共有し、信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査で得た情報をもとに、全員で共有し話し合っている。入所後2週間以内に暫定のケアプランを作成するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物畳み、簡単な掃除など職員と一緒に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時には利用者の状況を家族さんに連絡し、相談している。毎月のお便りを作成し日々の様子の写真を添付し報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊を気軽に頂けるように家族さんには説明している。馴染みの美容室やご飯屋さんへの外出はコロナ禍の為、規制は多少あるが、出来る限り対応している。	家族等とは、アクリル板のガードを設置し5分ほどの面会としている。家族との通院時は、帰りに外食を楽しんでいる。理容を希望する場合は、隣接の特養に理容師が訪れた際利用し、理容師や特養の職員と馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお話している時は見守りを行い、穏やかに過ごしていただくよう見守りをしている。一人でいる時は様子を見て、必要な時は声掛けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も情報を求められれば提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活面からの気づきやコミュニケーションを図りながら、会話の中で意向を把握し思いを実現できるよう検討している。	殆どの利用者が、自分の思いや意向を伝えることができ、利用者の新聞を見て「バラ園に行きたい」との希望があれば、バラ園の見学に出掛けている。自分のことをずっと話し続ける利用者にも、面白くないと思う利用者もおり、職員の見守りに対応している。言葉引き出すのは難しいが、利用者の希望は外出(~を見たい)や食べ物(~食べたい)が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居を希望されたときから聞き取りを行い、情報収集を行っている。本人との面談時にも生活歴を伺い、参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、体調に変化がないか、観察している。早めに気づき通院するようにしている。家族にも相談し協力してもらっている。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時家族に希望を聞き、ケアプランに反映している。その後の生活の中から、変化を見て、計画を見直したり、毎月のモニタリングを行い、カンファレンスを開き、職員の意見も取り入れ、現状にあった支援をしている。	入居後2週間以内に暫定プランを作成し、1ヵ月ほどケアを実践した上で、カンファレンスで意見交換し本計画を作成をしている。毎月のカンファレンスでは、個々の利用者の評価表を基に、入居者全員を検討している。短期目標は6ヵ月、長期目標は1年を目途に評価し、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中から、気づきや行動をケース記録に残し、申し送りノートにも記載し、全員が共有し話し合い介護計画を見直し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は外食は難しいが、個人の誕生日月に、全員でお祝いする機会を設けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での産直やスーパーを利用し、食材などの購入やお話を聞いている。町内の移動図書館から毎月本を借りている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重している。また、事業所での受診対応も行っている。情報提供をすぐ出来るように細かく日々の様子を記録している。	入居前のかかりつけ医を継続し、通院は家族が同行している。家族が付き添えない場合には、職員が付き添っている。家族通院時は、健康状態を記載した「情報提供書」を渡し、医師に確認したい事柄には返事をいただいている。日常の体調等は、隣接特養の看護師に相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は在籍していないが、利用者に変化があった際は、隣の特養ひとひらの看護師に連絡、相談が出来る体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供が出来る様、日々の様子を細かく記録している。入院時は、定期的に面会や電話を行い、利用者の状態を聞き、退院後の相談を家族や医療機関をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で重度化した場合の指針を作成しており、入所時の契約で説明を行っている。重度化した場合は家族へ早期に相談をしている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を策定している。入居時に指針を説明し、看取りは行なっていないことを伝えている。重度化した場合には、利用者の希望を踏まえ、かかりつけ医や家族と相談し、入院や他施設への入所を含め支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、応急手当講習を実施している。過去の急変や事故の事例を基に、対応の改善や対策の確認を行い、備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防員立会いの下、火災時の避難訓練と年1回、事業所独自で土砂災害避難訓練を実施している。消防員立ち合いの際には、改善点や継続点等助言を頂き災害時に備えている。施設の設備を適切に活用するため、防災システム等の知識確認も行っている。訓練時には地域の防災ボランティアの方にも参加して頂いている。	年2回消防署立会いで火災時の避難訓練を実施し、避難誘導後居室のドアを閉めること、誘導職員の退路を確保しておくことの助言を得ている。事業所独自で、土砂災害時の避難訓練も実施している。備蓄食糧は3日分、石油ストーブ、発電機を備えている。非常時には、隣接特養からの人的支援も予定している。	消防署の助言を活かしたマニュアルの作成と、夜間想定で薄暮時の訓練を実施していることから、今後、実際の暗さの体験をし、課題とその対応を検討されることを期待する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様それぞれの性格を理解できるように、日々情報収集や様子観察のケース記録を職員間で共有している。声掛けや対応の仕方について、月1回のカンファレンスや日々の業務内で確認する時間を設けている。	日々の関わりの中で得た利用者の性格等を、ケース記録等で共有し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。名前を呼ぶときには、さん付けで声がけしている。入室時は、ノックで許可を得てから、ドアを閉めてケアをしている。職員には、お兄さん、先生と声掛けしてくるが、入居者同志は(名前を覚えられないのか)ちょっとすみませんなどと、呼んでいる。	
----	------	--	--	---	--

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的にコミュニケーションを図り、生活やケアについて本人の希望や悩みなど傾聴している。入浴や職員と1対1で話す時間は、会話が弾んだり気持ちを開放しやすい傾向がある為、個別で話や希望を聞く事にも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活習慣に合わせた支援を実施して行くために、一人ひとりの基本情報の理解や収集を日々続けている。居室に籠りがちな利用者さんには趣味活動など無理の無い範囲でお誘いし意欲の低下に繋がらないように努めている。ひとりの時間を好む方もいらっしゃる為、距離感や配慮も気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の交換時には、一緒に服を選ぶように心がけている。家族さんへ服の準備をお願いする際には、本人の好みを伝え、準備していただいている。マニキュアやお化粧が好きな方には、外出時や気分転換に職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やおやつ作りの中で、その方のADLに合わせた食事の準備や片付けを一緒に行っている。内容としては、味見、盛り付け、下膳、季節に合わせた食材で食事のメニューやおやつを相談し一緒にきめることもある。	献立は職員が作成し、季節に合わせた食材を取り入れている。利用者とおやつを一緒に決めることもある。食べたいものを聞くと何も無いとする利用者もいるが、概ね、お刺身、寿司、甘いものを希望する傾向がある。誕生会や季節の行事食（冬至の南瓜や雛祭のちらし寿司等）、敬老会の職員手作り豪華弁当、和菓子の日のおやつ等、食事が楽しいものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立をもとにその方に合わせた内容で提供している。利用者様や家族様より希望があった際には、希望に添えるように検討をしている。必要な際には、かかりつけの医師や薬剤師と連携し確認を取るようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを徹底しており、誤嚥性肺炎の予防に努めている。ひとりで行う方でも、変化が無い様子観察をするうに心がけ、必要に応じて仕上げ磨きや歯科通院を検討している。定期的に歯ブラシの交換や消毒を行っている。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄状態を把握し共有している。問題が生じた際には、解決に向け利用者様や各職員より意見を聞き、ケアを取り入れている。自立に向け、パットやリハパンの使用など適切な方法を検討している。業者の方と連携し、排泄用品が本人と合っているか検討をしている。	利用者それぞれの排泄機能を把握し、車椅子使用(3名)の利用者を含め、全員トイレでの排泄や自立に向けた支援を行なっている。排泄用品が必要な時には、利用者や職員と相談し、業者(メーカーにより特徴がある)と連携し適切な方法を検討している。利用者の希望で、夜間にポータブルを1名が利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態をかかりつけの医師へ相談し、便秘薬や水分量を調整している。毎日の食事を工夫したり、乳製品や排便を促すことに繋げられる物の提供をしている。又、毎日午前中に身体を動かす体操やレクを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっている為、その中で入る順番や希望を聞いて入浴をいただいている。ひとりで入浴したい方や、長く入浴したい方等一人ひとりに合わせた入浴の時間になっている。ゆず湯や(敷地内で取れる)菖蒲湯で季節を楽しめるようにしている。	入浴は、月・水・金の午後とし、同性介助に配慮して週2回入浴している。清拭は毎日実施し、必要時にはシャワー浴を実施している。5月の菖蒲湯は敷地にある菖蒲を使用し、秋は柚子湯を楽しんでいる。入浴時は、職員と1対1のコミュニケーションの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休みたい時に休めるようにしているが、昼夜逆転や生活リズムが崩れることの無いよう、午睡時間に気を付けている。希望があった際には、自宅で使用していた寝具で休んで頂いている。ベッドだけではなく、敷布団でも対応できるように畳の準備や環境整備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様のかかりつけ医ごとに薬の説明をまとめ、各自確認できるようにしている。薬が変更になった際には変化がわかりやすいようにマークをする等工夫している。内服後より、ケース記録をより細かく記載するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入浴日以外の午後は趣味活動や創作品作りを行っている。家事や畑、外仕事、行事や祭りの準備等一人ひとりの既往歴や趣味、特技にあったお手伝いを一緒に行っている。季節に合った行事や、誕生会を行い、生活の楽しい時間となるように提供している。		

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の風景を見て散歩を希望される入居者がいる時は出来るだけ対応している。地域のイベントにも平等に全員参加できるよう努めている。	天気のよい日は、訓練を兼ねて避難場所となっている隣接の特養や事業所周辺を散歩している。コロナ禍であるが、屋外での田圃アート見学、石鳥谷祭りの山車見学、車窓からの桜見等実施している。外出が制限されることから、屋内での行事を工夫し、特に、ミニ運動会(玉入れ、風船バレー、紅白リレー、ボーリング等)は大いに喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の持ち込みはお断りしているが、不足の物品がある時は家族に相談し、職員が購入したり、一緒に買い物に行き、本人に満足していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している人がいる。日中は自由に使用してもらい、夜間は充電の為、預かるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂とホールから廊下を見渡せば、両側と奥にそれぞれ配置されており、利用者確認がとりやすい。壁面を利用し、四季折々の作品を配置し、季節の変化が分かるように工夫している。	共用のホール(食堂と居間等)には、食卓と椅子、ソファ、テレビが配置され、床暖房加湿器、エアコンで適切な生活環境となっている。ホールでは、運動や歌、トランプ、塗り絵、計算ドリル等をそれぞれ楽しんでおり、職員と一緒に歌う声も聞こえてくる。壁面には、習字などの作品を掲示している。利用者は、夕食後9時頃には殆ど居室に戻っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や、相性にも注意しながら、定位置に座っていただくが各々の椅子の他、ソファも二つ配置しており、思い通りの席に座り会話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時、本人の物やご家族の思いから使い慣れた物を持って来ているが、生活の場として、本人が馴染むように配置しているので、なるべく手を出さず、尊重し見守っている。	居室の入り口に、木製風の表札がかけられており、室内には、ベッド、タンス、棚、エアコンが備えつけられている。テレビ、ラジオの持ち込みは自由である。家族写真、レクで作成した作品など飾っている。家具やベッドの配置は、利用者が思うように配置することを尊重している。掃除は、毎日職員が行っているが、利用者ができる部分は一緒に行なっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レク活動で作った作品を居室に飾って鑑賞してもらっている。居室の動線の障害になる方はタンスや洗濯物干しを置かないようにしている。		